

51 出生直後の新生児。在胎 37 週、体重 3,120 g で出生した。啼泣と自発呼吸とは弱々しく、マスクで酸素を投与したが全身チアノーゼが強いため気管挿管された。挿管後 100 % 酸素を投与してもチアノーゼは改善しない。胸腹部エックス線写真(臥位)(別冊No. 17)を別に示す。

最も合併しやすいのはどれか。

- a 脳奇形
- b 肺低形成
- c 先天性心疾患
- d 消化管閉鎖
- e 腎無形成

別 冊

No. 17

52 50 歳の男性。眼底検査を勧められ来院した。15 年前に糖尿病と診断された。視力は両眼ともに 1.2(矯正不能)。眼底に出血が散在し、蛍光眼底造影検査で、両眼の眼底に広範囲な無血管野と網膜新生血管とを認める。

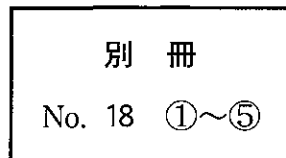
対応として最も適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 止血薬内服
- c 硝子体手術
- d 網膜レーザー光凝固
- e 副腎皮質ステロイドのテノン嚢下注射

53 46歳の男性。両手の脱力を主訴に来院した。1年前から右手の筋力低下を認め、1か月前から左手の筋力低下が出現した。右側優位で両側上肢遠位部の筋力低下と筋萎縮とを認める。四肢腱反射は亢進し病的反射がみられる。感覚障害と膀胱障害とを認めない。血液生化学所見ではCK値は正常である。末梢神経伝導速度は正常である。推定される頸髄レベルでの病変の模式図(別冊No.18 ①~⑤)を別に示す。

適切なのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



54 65歳の男性。昨夜からの悪寒戦慄を伴う39℃台の発熱、会陰部不快感および排尿困難を主訴に来院した。5日前から頻尿と排尿時痛とがみられたが放置していた。

最も考えられるのはどれか。

- a 急性腎盂腎炎
- b 膀胱炎
- c 尿道炎
- d 前立腺炎
- e 精巣炎

55 33歳の初妊婦。妊娠34週。右側腹部の痙痛と肉眼的血尿とを主訴に来院した。意識は清明。身長163cm、体重66kg。脈拍96/分、整。血圧130/70mmHg。尿潜血3+。血液所見：赤血球377万、Hb10.2g/dl、Ht33%、白血球10,200、血小板23万。血液生化学所見：尿素窒素32mg/dl、クレアチニン1.2mg/dl、尿酸4.5mg/dl。腹部超音波検査で右水腎症を認め、腹部単純CTで右尿管下部に3mmの結石を疑う石灰化像を認める。

対応として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 輸液
- b 尿管ステント留置
- c 腹腔鏡下尿管切石術
- d インドメタシン坐薬投与
- e 体外衝撃波結石破碎術(ESWL)

56 40歳の女性。両足の皮疹を主訴に来院した。病変部からの細菌・真菌培養は陰性である。胸骨部の痛みを訴えている。右足の写真(別冊No. 19)を別に示す。

この疾患と関連の深いのはどれか。

- a 慢性肝炎
- b 慢性腎炎
- c 多発神経炎
- d 慢性扁桃炎
- e 間質性肺炎

別冊 No. 19

57 83歳の女性。右上腹部痛を主訴に来院した。2日前から右上腹部痛が出現し持続している。意識は傾眠状態。体温 38.1℃。血圧 82/46 mmHg。眼球結膜に黄染を認める。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。右上腹部に圧痛を認める。血液所見：白血球 18,600、プロトロンビン時間 42 % (基準 80~120)。血液生化学所見：総ビリルビン 11.6 mg/dL、AST 478 IU/L、ALT 355 IU/L、LD (LDH) 847 IU/L (基準 176~353)、ALP 554 IU/L (基準 115~359)、アミラーゼ 127 IU/L (基準 37~160)。磁気共鳴胆管膵管像 (MRCP) (別冊No. 20) を別に示す。静脈路を確保し、抗菌薬の投与を開始した。

次に行う治療として最も適切なのはどれか。

- a 経口胆石溶解療法
- b 体外衝撃波結石破碎術 (ESWL)
- c 内視鏡的胆管ドレナージ
- d 経皮経肝胆嚢ドレナージ
- e 経皮経肝胆道鏡下切石術
- f 腹腔鏡下胆嚢摘出術
- g 胆管切開・切石術
- h 胆管空腸吻合術

別 冊 No. 20

58 在胎 30 週 0 日。帝王切開で出生の新生児。出生後 1 分の自発呼吸は不規則で、心拍数 92/分、整。鼻腔内吸引で顔をしかめるが、咳、くしゃみなどは出現しない。四肢の動きは認められるが筋緊張は低い。全身にチアノーゼを認める。

出生後 1 分の Apgar スコアはどれか。

- a 0 点
- b 1 点
- c 2 点
- d 3 点
- e 4 点
- f 5 点
- g 6 点
- h 7 点
- i 8 点
- j 9 点

59 2か月の乳児。顔色不良を主訴に来院した。呼吸数36/分、脈拍132/分、整。血圧80/50 mmHg。経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)85%。心雑音はないが、II音は単一である。胸部エックス線写真で心胸郭比0.5、肺血管陰影は減弱している。心電図(別冊No. 21A)と心エコー図(別冊No. 21B)とを別に示す。

考えられるのはどれか。

- a 心内膜床欠損症(房室中隔欠損)
- b Fallot 四徴症
- c 三尖弁閉鎖症
- d Ebstein 奇形
- e 完全大血管転位症
- f 総肺静脈還流異常症
- g 左心低形成症

別 冊 No. 21 A、B

60 再生不良性貧血を引き起こすのはどれか。

- a アスベスト
- b カドミウム
- c クロム
- d トリクロロエチレン
- e トルエン
- f ノルマルヘキサン
- g パラチオン
- h ベンゼン
- i マンガン
- j メタノール